

平成20年度

兵庫県立農林水産技術総合センター 年報  
(農業編)

兵庫県立農林水産技術総合センター

# 目 次

## I 組 織

1 位置	1
2 土地・建物	1
3 平成 20 年度予算	1
4 機構	2
5 職員	5
(1) 職員数	5
(2) 職員一覧	6

## II 業 務

1 試験研究	8
(1) 項目一覧	8
(2) 新規に実施した業務	16
2 普及活動	22
(1) 普及指導員の資質の向上	22
(2) 生産振興・地域農業の推進〈専門技術員現地調査研究〉	23
(3) 食品加工流通部の技術普及業務	27
3 教育・研修	28
(1) 養成部門	28
(2) 研修部門	30

## III 業 積

1 試験研究の主な成果	32
2 普及に移した新技術	44
3 センター研究報告に掲載した事項	49
4 ひょうごの農林水産技術に掲載した事項	50
5 外部に発表した事項	52
(1) 学会誌等	52

(2) 学会等講演会	52
(3) 研究会報・資料集等	54
(4) 研究会（大会・研究会）等講演	55
(5) ニュース・情報誌等	59
(6) 雑誌等	60
(7) 技術書籍等	61
(8) 新聞	61
(9) テレビ・ラジオ	63
6 試験研究成果発表会	64
7 種苗登録出願及び登録状況	67
8 特許・実用新案出願及び登録状況	68
9 表彰・受賞・研究業績等	72
10 研究員の派遣	72
11 研修生・見学者の受入れ	73
(1) 研究員受入要綱に基づく受入れ	73
(2) 県立高等学校農業科 10 年経験者研修、小学校教諭 初任者研修等	73
(3) トライやる・ウィーク体験事業	73
(4) 受託研修・(独)国際協力機構からの依頼による研修の 受入れ	73
(5) 見学者の受入れ	74
12 資格・認定研修への講師派遣	75
13 出版物等	77
※平成 20 年度版年報（農業編）編集委員	78

## Ⅱ 業 務

### 1 試 験 研 究

#### (1) 項目一覧

##### ア 主要研究課題

(\*印 抄録掲載)

名 称	研究期間	担 当	財源区分
<b>* 先端技術による県特産品の品種判別、産地判別技術の開発</b> (1) 産地判別技術の精度向上のための調査 (2) 簡易な産地判別技術の開発 (3) 有機化合物等による産地判別技術の開発	平 16～20	環境部、生物工学部	一部国庫
<b>地域特産作物における農薬動態解明と安全使用技術の開発</b> (1) 地域特産作物の農薬残留特性の把握 (2) 残留基準値を超えない使用法の開発	平 18～22	環境部	県単
<b>野菜の品目別カドミウム濃度の解明と濃度低減技術の開発</b> (1) 野菜の品目別・品質別カドミウム濃度の解明 (2) 野菜のカドミウム吸収抑制技術の開発	平 19～21	環境部	国庫
<b>* 安定的なミネラル強化野菜の生産技術の確立</b> (1) ミネラルを安定的に強化できる栽培技術の開発 (2) ミネラル強化野菜生産技術の組み立て実証	平 20～22	環境部、園芸部	県単
<b>* 作付け体系を考慮した環境負荷軽減のための効率的施肥技術の確立</b> (1) 肥料成分の流出量把握 (2) 作付け体系を考慮した効率的施肥技術の検討 (3) 現地実態調査・現地実証	平 20～22	環境部、園芸部	一部国庫
<b>* 安全・安心な県内農産物生産のための簡易検査法の確立</b> (1) ELISA キットの有用性の検討 (2) 簡易検査法の確立	平 20～22	環境部	県単
<b>* 野菜における有機農業発展のための合理的・効率的栽培技術の開発</b> (1) 有機農業に適した土づくり指針の策定 (2) 熱消毒技術と輪作体系および栽培方法の改善による萎凋病の抑制技術の確立 (3) 現地実証圃における検証と有機農業に適した合理的・効率的栽培指針の策定	平 20～23	環境部、北部農業部、園芸部	一部国庫
<b>* 畑作物におけるカドミウムの体系的なリスク低減技術開発</b> (1) 小麦の品種別カドミウム吸収実態 (2) 小麦のカドミウム濃度を減少させる土壌浄化技術の開発 (3) 新資材等による小麦のカドミウム低減技術の開発 (4) 体系的なリスク低減技術の開発	平 20～24	環境部	国庫
<b>* イオンビームを利用した花きの新品種作出</b> (1) キクへのイオンビーム照射による新品種作出 (2) ハボタンへのイオンビーム照射による新品種作出	平 18～20	生物工学部、園芸部	県単
<b>地域特産の栄養繁殖性花き・野菜の組織培養技術による収量・品質の向上</b> (1) 栄養系リンドウの生産力低下原因の究明 (2) 無病株育成技術の開発（リンドウ、アツザクラ） (3) 組織培養系統の変異評価と優良系統の選抜（フキ、リンドウ、アツザクラ）	平 19～21	生物工学部、園芸部、淡路農業部	県単
<b>DNA マーカー等を利用した効率的な病害抵抗性黒大豆品種の育成</b> (1) ダイズ茎疫病抵抗性黒大豆品種の育成 (2) SMV 抵抗性黒大豆品種の育成 (3) ほ場における選抜と育成系統の実用化試験	平 19～23	生物工学部	一部国庫
<b>* 穀類を原料とした機能性食品の開発</b> (1) 糸状菌（麹）、担子菌（キノコ）を利用した機能性付与技術の確立 (2) 麹・キノコ培養資材の機能性評価 (3) 新食材を用いた加工食品の検討	平 18～20	食品加工流通部、森林資源部	県単
<b>イチジクの高品位出荷流通技術の確立</b> (1) イチジクの収穫適期判定基準の確立 (2) イチジクの高品位輸送技術の確立 (3) イチジクの鮮度保持技術の確立	平 19～21	食品加工流通部	県単

名 称	研究期間	担 当	財源区分
<b>丹波黒大豆の高品質・早期出荷のための総合管理技術の開発</b> (1) 立枯性病害（茎疫病、黒根腐病）の総合管理技術の開発 (2) 2L率向上のための新たな栽培管理・施肥法の確立 (3) 省力かつ効率的な収穫・乾燥方法と労働環境の確立 (4) 施肥法及び収穫時期が品質・内容成分に及ぼす影響	平 17～21	作物・経営機械部、食品加工流通部、病害虫防除部、北部農業部	一部国庫
<b>DNA マーカー利用による高品質酒米品種の育成と醸造製品の開発</b> (1) 有望系統の栽培及び酒造適性評価と醸造製品の開発 (2) DNA マーカーを利用した高品質酒米育種素材の開発	平 18～22	作物・経営機械部 (酒米試験地)、生物工学部、食品加工流通部	県単
<b>「コウノトリ育む農法」支援技術の開発</b> (1) 還元条件による雑草防除法の実証並びに水稻収量性の経年変化の把握及び実証 (2) 病害虫の発生実態調査と防除体系の評価 (3) 「コウノトリ育む農法」の技術組立てと実証	平 19～23	作物・経営機械部、環境部、病害虫防除部、北部農業部	県単
<b>水稻生育予測に基づく広域分散圃場の効率的農作業管理システムの開発</b> (1) メッシュ気象、GIS 圃場管理データによる圃場ごとの生育予測システムの開発 (2) クモヘリカメムシの発生予測システムの開発 (3) 両システムを統合した圃場管理システムのプログラムの開発と現地適用性実証	平 19～23	作物・経営機械部、病害虫防除部	一部国庫
<b>* 県中南部地域における水稻の高温化対策技術の確立</b> (1) 局地環境情報を活用した酒米「山田錦」の品質向上技術の確立 (2) 「キヌヒカリ」に代わる高品質水稻品種「きぬむすめ」の良食味安定栽培技術の確立	平 20～22	作物・経営機械部、環境部、食品加工流通部	県単
<b>* 閉鎖型育苗方式によるトマトの完全無農薬優良苗生産技術の開発</b> (1) 閉鎖型育苗施設を利用した安定苗生産技術の開発 (2) 低段どり栽培による周年作付け体系の確立	平 18～20	園芸部	国庫
<b>キャベツ大玉系品種を利用した業務用低コスト安定供給技術の開発</b> (1) 大玉系品種を利用した秋期、冬期、初夏期安定生産 (2) 業務用キャベツ生産に対応できる省力、低コスト型施肥体系の確立 (3) 収穫から流通までの省力化体系	平 18～22	園芸部、作物・経営機械部	国庫
<b>キク切り花の正月、3月の彼岸の需要期に収穫できる技術の開発</b> (1) 寒ギクを利用した年末、3月の彼岸出荷作型の開発 (2) 夏ギクを利用した3月彼岸出荷作型の開発 (3) 周年供給のための栽培マニュアルの作成と現地実証	平 18～22	園芸部	県単
<b>イチジクの5倍密植栽培の長期安定生産技術の開発</b> (1) 5倍密植栽培の長期安定生産技術の開発 (2) 5倍密植に適した優良品種、系統の選抜 (3) 苗木生産システムの開発 (4) 水分管理の適正化による高品質果実の生産	平 18～22	園芸部	一部国庫
<b>丹波栗のブランド力向上を目指した大栗の安定生産技術の開発</b> (1) 大栗、多収「銀寄」系統の選定 (2) 「銀寄」の安定生産の適した整技法の確立 (3) 効率的かん水により大栗の安定生産 (4) 温湯処理果実の品質向上技術	平 18～22	園芸部	一部国庫
<b>* セル成型苗等小苗を活用した底面給水によるイチゴ炭疽病回避生産体系の確立</b> (1) セル成型苗等小苗の大量生産技術の開発 (2) 底面給水による炭疽病回避技術の開発	平 19～20	園芸部	国庫
<b>* 鉢花・花壇苗の品質保持技術の開発</b> (1) 店持ち性向上のための鉄供給による葉の黄変抑制技術の開発 (2) 花壇苗におけるエチレン感受性と落花・落葉防止技術の開発 (3) 生産・定植土壌の物理性が定植後の花壇生育に及ぼす影響	平 19～20	園芸部	国庫
<b>* アブラナ科野菜のキスジノミハムシの総合防除対策の確立</b> (1) キスジノミハムシの生態的調査 (2) 各種防除法の検討 (3) 総合防除体系の確立	平 18～20	病害虫防除部	県単

名 称	研究期間	担 当	財源区分
生物農薬の簡便で効果の高い施用法の開発 (1) ペレット化種子の使用条件の検索 (2) ペレット種子の効果検定	平 19～21	病害虫防除部	国庫
近紫外線を利用した施設におけるうどんこ病・灰色かび病の物理的防除技術の開発 (1) 近紫外光 (UV-B) 照射による植物病害発生抑制技術の確立 (2) 近紫外光 (UV-B) 照射による施設野菜病害防除及び果実品質向上の実証 (3) 近紫外光 (UV-B) 照射による施設イチゴ病害防除の作用機構の解明	平 19～21	病害虫防除部、食品加工流通部	一部国庫
ハウストマトにおける薬剤抵抗性タバコナジラミに対する防除法の開発 (1) 発生実態の把握 (2) 有効な防除法の検討 (3) 総合的な防除体系の実証	平 19～21	病害虫防除部	県単
* 病原菌の簡易迅速遺伝子診断法の開発 (1) 病原菌遺伝子の病患部、土壌及び水からの直接抽出法の検討 (2) 遺伝子チップを用いた複数病原菌の一括検出法の検討	平 20～21	病害虫防除部	国庫
* テントウムシを利用した果菜類のアブラムシ防除技術の確立 (1) ナミテントウの天敵能力の評価 (2) 放飼方法の検討 (3) 組み立て実証	平 20～22	病害虫防除部	国庫
* IPM 技術によるイチゴ病害虫防除の実証と評価 (1) 有機資材によるイチゴの病害虫の防除効果の検討 (2) IPM 技術における化学農薬による臨機防除法の検討	平 20～22	病害虫防除部	県単
ピーマンの高温対策による長期安定生産技術の開発 (1) 耐暑性品種及び各種資材の検討 (2) 樹勢維持のための栽培管理技術 (3) 現地実証試験	平 19～21	北部農業部	一部国庫
傾斜地におけるニホンナシ「おさゴールド」の早期成園化と大果生産技術 (1) 「おさゴールド」の密植・2本主枝栽培技術の開発 (2) 大果・省力生産技術の開発 (3) 傾斜地での密植栽培技術の開発	平 19～23	北部農業部	県単
* 根域改善によるコシヒカリの収量・品質向上技術の確立 (1) 根の発育と収量・品質・食味の関係調査 (2) 根量・根域拡大による収量・品質向上技術の検討 (3) 根の発育、環境ストレス耐性に及ぼすケイ酸の効果	平 20～22	北部農業部、環境部、食品加工流通部	県単
* 高品質で特色あるブルーベリーの品種選定と水田転換園向け早期成園化技術 (1) 本県に適し高品質で特色のある品種の選定と高付加価値加工品の開発 (2) ポット簡易栽培技術の開発 (3) 水田転換園向け早期成園化技術	平 20～22	北部農業部、食品加工流通部	県単
* レタスべと病の多発要因の究明と防除対策 (1) 発生生態と伝染経路の究明 (2) 防除対策技術の確立	平 18～20	淡路農業部	県単
* カーネーションの2年切り栽培と高温期の品質向上による周年出荷技術開発 (1) 株切り返し技術の開発 (2) 施設内昇温抑制技術の開発 (3) 時期別土壌養水分の検討 (4) 耐高温性品種の選定 (5) 技術の実証評価	平 18～20	淡路農業部	一部その他
タマネギ育苗の災害回避・生産安定技術の開発 (1) 播種期の遅延が生育及び生産性に及ぼす影響 (2) 播種期遅延時の移植方法と施肥方法の検討 (3) 播種期遅延時の現地実証と作業性・収益性の評価	平 19～21	淡路農業部	県単

名 称	研究期間	担 当	財源区分
<b>* 光を利用したキクの開花を遅らせない夜蛾類防除技術の開発</b> (1) 光がキクの開花に及ぼす影響の解明 (2) 光による夜蛾類の防除効果の解明 (3) 無電源地域でも利用可能なシステムの開発 (4) 省電力の実用・普及モデルの開発と実証	平 20～22	淡路農業部、園芸部	一部国庫
<b>* レタスを基幹とした多毛作における持続的安定生産技術の確立</b> (1) 遺伝資源と病害検定手法を活用した複合抵抗性育種素材の検索と実用品種の選定 (2) ベと病菌の産地、作型、気象により変動するレースに対応した抵抗性品種の利用と栽培管理技術の確立 (3) 輪作作物の導入による耕種の防除法の確立 (4) レタスと輪作物目を組み合わせた収益性の高い多毛作体系の確立	平 20～22	淡路農業部	県単
<b>* 但馬牛肥育牛における脂肪壊死症の発症防止技術の開発</b> (1) 育成牛の栄養状態の把握方法及び履歴調査 (2) 育成期の栄養状態と脂肪壊死症発症との関連性の検討 (3) 肥育前期の栄養状態と脂肪壊死症発症との関連性の検討 (4) 脂肪壊死症を発症させない飼育管理マニュアルの作成	平 16～20	家畜部	県単
<b>安全・安心に配慮した家畜飼養管理技術の開発</b> (1) 抗生物質に代わる代替物質の効果検討 (2) 有効代替物質による添加割合の検討 (3) 有効代替物質による抗生物質添加期間短縮の検討	平 18～22	家畜部	県単
<b>但馬牛の霜降りモモ肉の生産技術とその評価法の開発</b> (1) モモぬけに及ぼす遺伝的影響の解明 (2) モモぬけを簡易評価するための超音波画像解析法の開発 (3) モモぬけを向上させる飼養管理技術の確立とモモぬけの制御法の開発	平 18～22	家畜部	県単
<b>但馬牛における経済形質に関わるゲノム解析</b> (1) 優良ハプロタイプの効果検証 (2) 遺伝的能力に優れた種牛の作出	平 18～22	家畜部	県単
<b>「ひょうご味どり」のゲノム解析によるモモ肉割合の増加対策</b> (1) モモ肉割合、体重及び腹腔内死亡割合の QTL 解析のための実験家系の造成 (2) モモ肉割合、体重及び腹腔内死亡割合の QTL 解析 (3) 「兵庫」の品種固定と交配実証試験	平 19～23	家畜部	県単
<b>* 但馬牛雌牛の合理的な肥育技術の開発</b> (1) 雌牛と去勢牛の美味しさ成分の比較検討 (2) 肥育前期のエネルギー供給水準の検討 (3) ビタミン A 供給レベルの検討 (4) 雌牛肥育マニュアルの作成	平 20～24	家畜部	県単
<b>高蛋白粗飼料を利用した子牛の育成期の飼養管理法の確立と実証</b> (1) 育成前期の飼料給与方法の検討 (2) 育成期における高蛋白粗飼料給与方法の検討 (3) ホエー代用乳を用いた和子牛の発育改善技術の開発 (4) 和子牛の人工哺乳による発育改善効果の実証	平 17～21	北部畜産部	一部国庫
<b>* 粗飼料多給で良好な発育が可能な和子牛育成技術の開発</b> (1) 粗飼料の種類と組み合わせによる子牛の発育改善効果 (2) 粗飼料多給飼育に最適な濃厚飼料の解明	平 18～20	北部畜産部	県単
<b>受精卵（胚）の遺伝情報を利用した高能力牛の生産技術の開発</b> (1) 胚による遺伝情報の診断 (2) 遺伝情報胚の凍結保存技術の確立	平 18～22	北部畜産部	県単
<b>黒毛和種牛の繁殖成績低下の要因分析とその改善技術の開発</b> (1) 分娩前後の栄養水準と分娩後の繁殖成績との関連の検討 (2) 繁殖成績改善のための飼養管理技術の検討 (3) 繁殖管理マニュアルの作成	平 19～22	北部畜産部	県単
<b>但馬牛の有用機能・経済形質関連遺伝子の効果</b> (1) 有用機能関連遺伝子の効果検証 (2) 有用機能関連遺伝子の遺伝子型を用いた種雄牛選抜	平 19～22	北部畜産部	県単

名 称	研究期間	担 当	財源区分
<b>* 牛枝肉画像解析によるロース芯内小ザシ評価法の開発</b> (1) ロース芯内の小ザシ評価法の確立 (2) ロース芯内小ザシの育種価評価法の検討 (3) 育種価を用いた種牛選抜手法の検討	平 20～22	北部畜産部	県単
<b>* 安全・安心な生乳生産のための生体情報監視システム技術の開発</b> (1) 採取体液からの生体情報と栄養状態や疾病との関連性 (2) 酪農家における産後疾病発症予測システムの構築 (3) 近赤外線分光法による生体情報把握法の開発	平 16～20	淡路畜産部	一部国庫
<b>ひょうごブランド牛乳生産技術の開発</b> (1) 生乳生産環境基準の策定 (2) 生乳品質評価法の開発 (3) ひょうごブランド牛乳認定農家の検証	平 18～21	淡路畜産部	県単
<b>高能力牛における繁殖効率向上技術の開発と実証</b> (1) 発情発見システムの開発 (2) 分娩早期発見システムの開発 (3) 繁殖効率向上プログラムの作成	平 19～22	淡路畜産部	県単
<b>* 地域自給粗飼料とエコフィードを活用した乳牛飼養技術の開発</b> (1) 地域自給粗飼料とエコフィードを最大限取り入れた飼料構成の検討 (2) 現地実証試験 (3) 活用マニュアルの作成	平 20～22	淡路畜産部	県単

イ 一般研究課題

(\*印 抄録掲載)

名 称	研究期間	担 当	財源区分
<b>有機質資源連用試験</b> (1) 水田(水稻栽培)における土壌の変化と生育・収量	平 10～	環境部	国庫
<b>作物栄養試験</b> (1) 水稻・麦に対する堆肥及び肥料三要素試験 (2) 水田における堆肥および化学・有機質肥料連用試験	継続 継続	環境部	県単
<b>農業公害対策試験</b> (1) カドミウム高吸収イネの栽培、持ち出しによる土壌浄化の検証	平 19～21	環境部	県単
<b>農業環境改善試験</b>	継続	環境部	県単
<b>生物工学応用試験</b> (1) 地域特産作物の大量増殖技術の開発	継続	生物工学部	県単
<b>有用植物遺伝資源の収集保存試験</b> (1) 有用植物の品質・系統の収集と保存 (2) 各種病原微生物の収集と保存 (3) プラスミド等遺伝子の保存 (4) 抗体産生細胞株の保存	継続	生物工学部	県単
<b>新製品開発試験</b> (1) 農産物の品質評価技術 (2) 農産物の品質保持・貯蔵技術 (3) 農産物加工技術(加工適性評価・加工食品開発)	継続	食品加工流通部	県単
<b>作物品種改良試験</b> (1) 水稻新品種育成試験 (2) 新品種栽培特性の検討	継続 継続	作物・経営機械部	県単 県単
<b>作物栽培法改良試験</b> (1) 気象感応調査 (2) 雑草対策試験	継続 平 20	作物・経営機械部	県単 県単
<b>* (3) 小麦「ふくほのか」の高品質多収施肥法の確立</b> <b>原原種ほ設置 (水稻、麦、大豆、酒米)</b>	平 18～20 継続	作物・経営機械部、作物・経営機械部(酒米試験地)、北部農業部	県単 県単

名 称	研究期間	担 当	財源区分
奨励品種決定基本調査（水稲、麦、大豆）	継続	作物・経営機械部、北部農業部	県単
農業経営試験		作物・経営機械部	県単
＊(1) 消費者評価を活用した産地育成手法の解明	平 18～20		
農業機械化試験		作物・経営機械部	県単
(1) タマネギ収穫球の大型コンテナ乾燥技術の開発	平 19～21		
＊(2) 丹波大納言小豆の機械収穫・共同乾燥調製方式の確立	平 20～22		県単
酒米改良試験		作物・経営機械部 (酒米試験地)	県単
(1) 酒米の気象感応調査	継続		
(2) 酒米新品種育成試験	継続		県単
＊(3) 紫黒米品種「兵系紫 75 号」の安定生産技術の開発	平 19～20		県単
野菜園芸改良試験		園芸部	県単
(2) 果菜・葉根菜類の作型別適品種の選定と栽培法の改善	継続		
花き園芸改良試験		園芸部	県単
(1) 兵庫県花卉協会との参画と協働によるキクのオリジナル品種育成	平 17～22		
(2) 新花壇苗の探索	平 13～		県単
＊(3) バラの養液土耕技術の開発	平 19～20		県単
果樹園芸改良試験		園芸部	県単
＊(1) ブドウの省力安定生産技術の確立	平 18～20		
(2) 兵庫のブランド果樹確立に向けた優良品種地域適応性検定試験	平 12～		県単
薬草改良試験		園芸部(薬草試験地)	県単
(1) トウキの増収技術の確立	平 20		
病害虫防除試験		病害虫防除部	県単
＊(1) 温暖化に伴うナス科青枯病の抵抗性遺伝子導入による病害防除	平 18～20		
＊(2) ナシ黒星病に対するリスク低減化技術の確立	平 18～20		県単
(3) 有効資材によるイチゴの空気伝染性病害の防除方法の検討	平 19～21		県単
＊(4) イネいもち病 MBI-D 剤耐性菌のモニタリングと本田防除剤の有効性の検討	平 20～22		県単
＊(5) 大豆 IPM 指標の作成	平 20～22		県単
但丹地方における主要農作物の品種並びに栽培法改善試験		北部農業部	県単
(1) 水稲気象感応調査	継続		
(2) 地域特産野菜類の特性維持及び種苗生産	継続		県単
＊(3) 在来種セル成型苗及びマット苗生産技術の開発	平 18～20		県単
(4) 県北部における小麦新品種の栽培試験	平 19～21		県単
梨等地域特産果樹改良試験		北部農業部	県単
(1) ナシ気象感応試験	継続		
(2) 但馬丹波地域に適するナシ品種の選定	平 11～		県単
(3) 地域特産果樹の栽培法の改善	平 20～		県単
淡路地域における園芸作物の品種栽培試験			県単
(1) 特産及び新特産野菜の種類、品種選定と栽培改善	継続	淡路農業部	
＊(2) タマネギ輪作体系における施肥改善	平 20～22	淡路農業部	県単
＊(3) 畝立て同時条施肥機を用いた土壌改良資材の局所施用によるアブラナ科野菜等の生産安定技術	平 20～22	淡路農業部、作物・経営機械部	県単
(4) カーネーションの長期連作が収量、品質及び土壌の変化に及ぼす影響	継続	淡路農業部	県単
(5) カーネーションの品種の育成と選定	継続	淡路農業部	県単
＊(6) スイートピーの品種育成	平 17～20	淡路農業部	県単
(7) 新特産果樹の種類及び品種の選定	継続	淡路農業部	県単
肉用牛産肉能力検定試験	継続	北部畜産部	県単
(1) 直接検定			
(2) 現場後代検定			
新育種手法開発調査試験	継続	北部畜産部	県単
(1) 育種価評価による種牛の遺伝的産肉能力の推定			
(2) 但馬牛データベースを効率的に利用するためのシミュレーションソフトの開発とその利用法の検討			

ウ 重点領域研究

名 称	研究期間	担 当
アサクラサンショウ産地化推進のための栽培マニュアル作成	平 20	北部農業部
丹波黒大豆の標準化に向けた県内在来系統の特性調査	平 20	食品加工流通部、生物工学部
タマネギべと病が貯蔵性に与える影響	平 20	淡路農業部

エ 行政依頼事業

(\*印 抄録掲載)

名 称	依頼機関	研究期間	担 当
* 浄水発生土の有効活用試験	企業庁水道課	平 17～20	環境部、園芸部
有害化学物質リスク管理基礎調査事業	農業改良課	平 20	環境部
* 全国農地土壌炭素調査	農業改良課	平 20～24	環境部
地力増進対策診断指導事業	農業改良課	継続	環境部
土壌機能モニタリング調査	農業改良課	平 11～20	環境部
農用地土壌汚染対策事業	農業改良課	継続	環境部
農薬残留対策総合調査	農業改良課	継続	環境部
ひょうご安心ブランドに係わる残留農薬分析	農業改良課	平 14～	環境部
ほ場整備事業のための土壌調査	県内各市町	継続	環境部
ひょうご食品認証事業関連試験	消費流通課	継続	食品加工流通部
* ソフトセルロース利活用技術確立事業	消費流通課	平 20～22	作物・経営機械部、環境部
原種ほ設置事業	農産園芸課	継続	作物・経営機械部(原種農場)
委託原種ほ設置事業	農産園芸課	継続	作物・経営機械部(原種農場)
麦・大豆原種ほ設置事業	農産園芸課	継続	作物・経営機械部(原種農場)
ナス科野菜の特性検定試験	総合農政課	継続	園芸部
農作物病害虫発生予察事業	農業改良課	継続	病害虫防除部
農薬危害防止対策事業	農業改良課	継続	病害虫防除部
難防除病害虫対策事業	農業改良課	継続	病害虫防除部
病害虫診断対策事業	農業改良課	継続	病害虫防除部
* 家畜人工授精事業	畜産課	継続	家畜部、北部畜産部
飼料安全性確保対策事業	畜産課	継続	家畜部
豚産肉能力直接検定事業	畜産課	継続	家畜部
豚産肉能力間接検定事業	畜産課	継続	家畜部
自給飼料増産推進対策事業	畜産課	継続	家畜部
ひょうご味どり生産力強化事業	畜産課	継続	家畜部
* 肉用牛産肉能力検定事業	畜産課	継続	家畜部、北部畜産部
乳質改善指導事業	畜産課	継続	淡路畜産部
牛群検定活用型酪農振興対策事業	畜産課	継続	淡路畜産部
高能力乳用牛供給促進事業	畜産課	継続	淡路畜産部

オ 民間等受託研究等

(\*印 抄録掲載)

名 称	委託機関	研究期間	担 当
国際協力機構委託研修	(独)国際協力機構兵庫国際センター	継続	環境部
新資材を活用した水稻のカドミウム吸収抑制技術の開発	三菱マテリアル	平 19～21	環境部
キク科植物を用いたカドミウム汚染農地の浄化試験	環境総合テクノス	平 20	環境部
生分解性被覆肥料の土壌分解性確認試験	多木化学株式会社	平 20	環境部
ケイ酸質資材の機能評価並びに効果的施用技術の確立	全国農業協同組合連合会兵庫県本部	平 20～21	環境部
携帯式作物生育情報測定装置による水稻生育診断技術の確立	生研センター(農業機械化研究所)	平 20	作物・経営機械部

名 称	委託機関	研究期間	担 当
中山間地域対応型防除機の開発促進評価試験	生研センター(農業機械化研究所)	平 20	作物・経営機械部
新農薬応用試験	兵庫県植物防疫協会	継続	作物・経営機械部、園芸部、病害虫防除部、北部農業部、淡路農業部
水稲民間育成品種特性検定試験	農林水産先端技術産業振興センター	平 20	作物・経営機械部
大豆民間育成品種特性検定試験	フジッコ(株)	平 20	作物・経営機械部
* 「淡路島たまねぎ」ブランド化に向けた試験研究	全国農業協同組合連合会兵庫県本部	平 20～21	淡路農業部、食品加工流通部、環境部

平成 20 年度版 年報（農業編）編集委員

所 属	職 名	氏 名	備 考
総務部	主幹（広報情報担当）	井上 智	委員長
企画調整・経営支援部	主幹（企画調整担当）	村上 利孝	
	主幹（農業普及担当）	三浦 行篤	
	研究主幹（産学官連携・知的財産管理担当）	山下 賢一	
農業大学校	副校長	森本 善明	
農業技術センター 農産園芸部	研究主幹（経営機械担当）	松本 功	
	研究主幹（野菜担当）	秋山 隆	
	研究主幹（植物改良担当）	吉田 晋弥	
同 環境・病虫害部	研究主幹（農業環境担当）	青山 喜典	
	研究主幹（防除指導担当）	相野 公孝	
畜産技術センター 家畜部	研究主幹（肥育牛担当兼中小家畜担当）	野田 昌伸	
北部農業技術センター 農業・加工流通部	研究主幹（食品加工流通指導担当）	永井 耕介	
同 畜産部	研究主幹（家畜育種担当）	福島 護之	
淡路農業技術センター 農業部	部長	上谷 安正	
同 畜産部	研究主幹（酪農経営担当）	國東 大資	

平成 20 年度 兵庫県立農林水産技術総合センター年報（農業編）

平成 21 年 10 月 発行

発 行 兵庫県立農林水産技術総合センター

兵庫県加西市別府町南ノ岡甲 1533

電 話 0790-47-2400

FAX 0790-47-0549

編 集 総務部広報情報担当